

# 病院船

～戦傷病者を還送した船～

## 開催趣旨

---

戦時において発生する傷病者または海難者を救助、治療することを目的とした船舶を病院船と呼びます。

日本においては、明治27（1894）年の日清戦争以降、陸海軍が有事に際して民間商船を徴用するかたちで運用されてきました。戦傷病者の立場から病院船について見ていくと、乗船する際の心境は、その時の戦局の影響を大きく受けます。日本に向かう傷病兵の思いはそれぞれで、資料や作品から当時の様子的一端を垣間見ることができます。

本展では、戦時中の病院船の活動の実態を紹介するとともに、病院船で搬送された戦傷病者にまつわる資料、証言をもとに病院船とはどのような存在であったのかについて考えます。

---

主	催	： しょうけい館（戦傷病者史料館）
会	期	： 令和元（2019）年7月17日（水）～9月8日（日）
会	場	： しょうけい館1階展示室
入	場	料： 無料
開	館	時 間： 10：00～17：30（入館は17：00まで）
休	館	日： 毎週月曜日・8/13（ただし8/12は開館）
内	覧	会： 令和元（2019）年7月17日（水）13：00～14：00
協	力	： 日本郵船氷川丸、日本郵船歴史博物館、横浜みなと博物館

---

## 展示構成

### 1. 病院船とは

---

明治 32 (1899) 年、有事の際に海上で発生する負傷者および海難者救護を目的として、「ジェネヴァ条約の原則を海戦に応用する条約」(通称：ハーグ条約) が、日本を含む 26 ヶ国間で締結されました。この条約において、病院船とは戦時において発生する傷病者または海難者を、国籍に関係なく救助・治療するものと位置づけられたのです。

日本では、日清戦争時に海軍が病院船「神戸丸」を徴用したことが最初となります。その後、日本赤十字社によって建造された「博愛丸」(明治 31 年)、「弘済丸」(明治 32 年) など、日清戦争を契機として有事の際に軍が民間商船を病院船として徴用していくこととなりました。

昭和 12 (1937) 年以降、戦争が拡大すると、病院船の活動も多岐にわたりました。病院船は戦時期間中を通して戦地へ医薬品の輸送、戦地での防疫を行い、戦地からは戦傷病者を内地へ還送するなど、様々な任務に従事しました。ハーグ条約では「船舶(注：病院船)は戦闘中と戦闘後とを問わず自ら危険の責に任して行動する」とされており、病院船が交戦国に攻撃され沈没することの危険性を認識していなければなりません。戦時下においては、艦船・輸送船・病院船の別なく攻撃されることも多かったです。



担送患者収容風景

(日中戦争期／病院船「波上丸」)



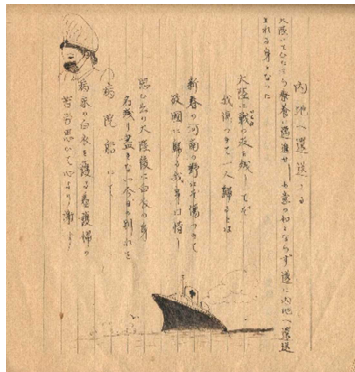
担送患者収容風景

(戦時中／病院船「氷川丸」)

## 2. 病院船と戦傷病者

白地の船体に赤十字をあしらった病院船は、戦傷病者にとって内地還送してくれる救世主のような存在でもありました。しかしながら乗船する戦傷病者の心境は、その時の戦局の影響を大きく受けます。内地に向かう傷病兵の思いはそれぞれで、資料や作品から当時の様子的一端を垣間見ることができます。

ここでは病院船に乗船した経験のある戦傷病者にまつわる資料や証言をもとに、戦傷病者が病院船をどのようにとらえていたのかを紹介します。



中国戦線より病院船で内地還送される際の心境を綴った回想記  
(昭和17年2月／病院船不詳)



海南島より内地還送のため氷川丸に乗船した際のスケッチ  
(昭和19年12月／病院船「氷川丸」)

## 3. 戦傷病者の病院船絵画

海洋船舶画家の上田毅八郎さんは、陸軍の船舶砲兵として輸送船「金華丸」に乗り込み、昭和19(1944)年11月フィリピンのマニラ湾の船上で受傷しました。利き腕である右腕を受傷したことにより、復員後は左手で字を書く訓練に励み、家業であった塗装業を営む傍ら、艦船の絵を描き続けました。晩年は、海洋船舶画家として戦艦、帆船、客船をはじめ、機関車、スポーツカーなど、幅広いジャンルの絵を描きました。その代表作はプラモデルの箱絵にも用いられています。

多くの艦船や輸送船などを描いた上田作品の中には病院船も含まれています。



絵画「氷川丸」



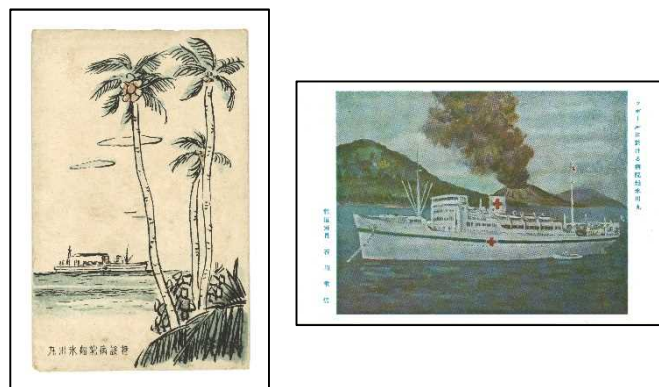
絵画「高砂丸」

#### 4. 「氷川丸」の航跡

氷川丸は昭和 5（1930）年に日本郵船によって建造されました。海外の主要航路として位置づけられていたシアトル航路についた氷川丸は、最新鋭の豪華貨客船としてチャールズ・チャップリンや秩父宮同妃両殿下などの著名人も乗船するなど、華々しい活躍をしていました。

昭和 16（1941）年 11 月、海軍に徴用されて海軍特設病院船となり、終戦までのおよそ 3 年半の間に南洋諸島方面へ赴き、計 24 回の航海で約 3 万人に上る傷病兵を還送しました。

戦争を生き抜いた氷川丸は現在、神奈川県横浜市の山下公園内に係留、公開されています。平成 28（2016）年には国の重要文化財に指定され、貨客船、病院船、そしてまた貨客船へと数奇な運命をたどった航跡をうかがうことができます。



病院船「氷川丸」絵葉書セット  
（日本郵船歴史博物館所蔵）



「引揚げ輸送中の病院船（氷川丸）」  
（製作年不詳／日本郵船歴史博物館所蔵）



現在の氷川丸  
横浜港洋上より撮影（提供：日本郵船氷川丸）

## 関連イベント

### 1. フロアレクチャー

内 容：学芸員が企画展の展示解説をします。

日 時：7/28（日）、8/4（日）、8/25（日） 14：00～14：30

場 所：しょうけい館1階 企画展示室

その他：当日参加自由・無料

### 2. 証言映像上映

内 容：病院船に乗船した戦傷病者やそのご家族の証言映像を紹介

日 時：会期中毎日 10：00～17：00

場 所：しょうけい館1階 証言映像シアター

その他：鑑賞自由・無料

上映時刻	映像タイトル	時間
10：00	海軍看護兵 若き日の記憶	15分
〃	がむしゃらに生きて、描く	18分
11：00	生かされた人生への感謝	21分
12：00	家族の絆で支え合う	16分
〃	再起奉公 痛みと葛藤を超えて	17分
13：00	闘い続けた半生	24分
13：00	軍旗の下で・・・体と心の受傷	10分
〃	障害を超えたおおらかさ	10分
14：00	ミッドウェー海戦で負傷して	18分
〃	無いものは無い、それでもやるほかない…	19分
14：00	癒されない心 「死んだ方がまし」と思った青春	14分
〃	心の痛みと共に～飛行班の思い～	19分
15：00	戦場体験が生んだわかまり	25分
16：00	二人三脚、商売繁盛	22分
〃	終戦から始まった30年の闘い～銃創と結核～	13分
17：00	今日あることに感謝 明日があればさらによし	23分

- ◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。
- ◆団体プログラムにより変更となる場合もあります。